

## 小泉首相の靖国参拝続行発言を批判し

### 辞任を求める声明

二〇〇五年五月一八日

市民の意見 30 の会・東京

小泉純一郎首相は五月一六日、衆議院予算委員会で中国や韓国が中止を求めている靖国神社参拝について以下のよう語りました。

どの国でも戦没者への追悼を行なう気持ちを持っている。どのような追悼の仕方がいいかは他の国が干渉すべきではない。東条英機氏のA級戦犯の話がたびたび国会でも論じられるが、「罪を憎んで人を憎まず」は中国の孔子の言葉だ。私は一個人のために靖国を参拝しているのではない。戦没者全般に敬意と感謝の誠をささげるのがけしからんというのは、いまだに理由が分からない。いつ行くかは適切に判断する。

この発言は耳を疑うような暴言です。かつて日本によって筆舌に尽くしがた

い惨禍をこうむった近隣の諸国がなぜ小泉首相の靖国参拝を批判し続けてきたのか、その理由

は鮮明です。村山政権の時代に首相談話という形で表明された、日本の侵略と植民地支配についての「痛切な反省と心からのおわび」がまったく口先だけのものであることを小泉首相の度重なる靖国参拝が証明したからです。にもかかわらず小泉首相は「いまだに理由が分からない」と完全に開き直りました。あまつさえわざわざ「罪を憎んで人を憎まず」という言葉が孔子の言葉であるとのべて反撃したのですが、これは戦争犯罪を問題にすること自体がおかしいと述べたに等しいことです。まして正当な根拠のある批判を「干渉」と切り捨てる態度は傲慢な独善と言わざるを得ません。昨年四月の福岡地裁判決は首相の靖国参拝を明確に違憲としましたが、司法の判断も馬耳東風です。

先に中国で起きた日本への抗議行動

もそのもともとの原因は小泉首相の靖国参拝であり、韓国政府の厳しい批判を含め、日本とアジア近隣諸国との関係は今や未曾有の危機的状況にあります。小泉首相が批判に応え靖国参拝の中止を表明するのは当然のことでした。

上記の小泉首相の発言は日本と近隣諸国との緊張をますます激化させるものです。東アジアと世界の平和を心から希求する私たちは、もはや小泉氏が首相の座に留まることに耐えられません。私たちは小泉首相の即時辞任を求めます。全閣僚がもう二度と靖国参拝を行わないことを日本政府が世界に向けて公約することを求めます。

